

コロナ流行下で起きていること

公表されている統計データをもとに、医療、私たちの生活、社会で起きていることを見てみます

羽藤 邦利

目次

1 国民の健康に及ぼした影響

- ① 注目されるエピソード
- ② 主な死因別死亡数の月別推移
(2019 2020年 2021年)
- ③ 主な死因別死亡数の月別推移
(2020年と“2015～2019年平均”との比較)
- ④ 超過死亡（東京都）
- ⑤ 精神科医療への影響。精神障害を持っている人のコロナ死亡率

2. 人口動態統計（速報）から（2019年と2020年と2021年）

3. 生活・経済活動への影響

- ① 完全失業数・完全失業数の推移
- ② 家庭で起きていたこと
- ③ 犯罪統計

4. 公的なものの在りよう

5. 感染症対策を見直すときだ

- ① これまでの対策で欠けていたこと
- ② コロナ対策をどのように変えて行けば良いのだろうか

1. コロナ流行・コロナ対策が 国民の健康に及ぼした影響

① コロナ流行・コロナ対策が国民の健康に及ぼした影響 (注目されるエピソード)

- 東京都や大阪府で救急搬送先が見つからない
- 2020年4月の緊急事態宣言以降、心筋梗塞患者の受診が遅れ、重い合併症が約4倍増加
- がん検診3割減、2100人未発見の恐れ
- 肺がん約8,600人の新規患者が診断と治療の機会を逸した可能性
- がん手術の遅れで余命が短縮した
- 在宅看取り患者数1.5倍
- フレイル・老衰が強まった
- 中学以上のすべての世代で体力低下

これらの影響は
2021年に現れる

がん治療への影響（1）

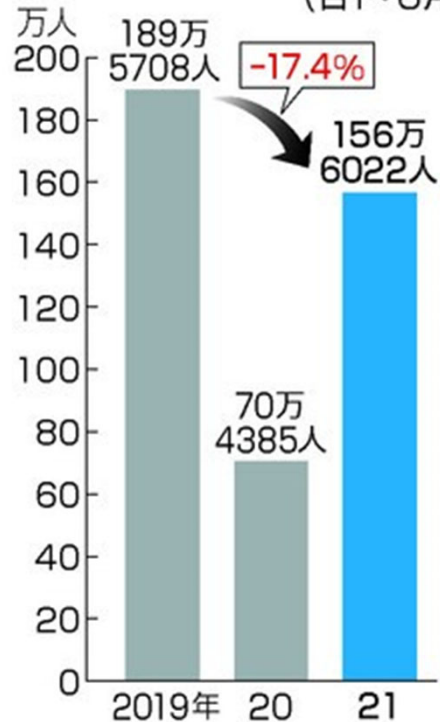
- 7つの癌（膀胱癌、乳癌、大腸癌、直腸癌、肺癌、子宮頸癌、頭頸部癌）について、コロナ禍での1ヶ月の癌治療の遅れから6%~13%も死亡の可能性を高める（Timothy Hannaなど）
- 癌の1年間の診断の遅れは5年生存率に大きな影響を及ぼす（Camille Maringeなど）
- 3ヶ月の手術の遅れが英国では4700人の死亡に繋がる（Amit Sudなど）。日本に当て嵌めると、**新型コロナによる癌治療の遅延に起因する死者数は、新型コロナの死者数とほぼ同じくらいになるだろう**

アキよしかわ

コロナが、がん治療に与えた「コラテラル・ダメージ」
日経メディカル7月12日号より

がん治療への影響（2）

五つのがん検診の受診者数
(各1~6月)



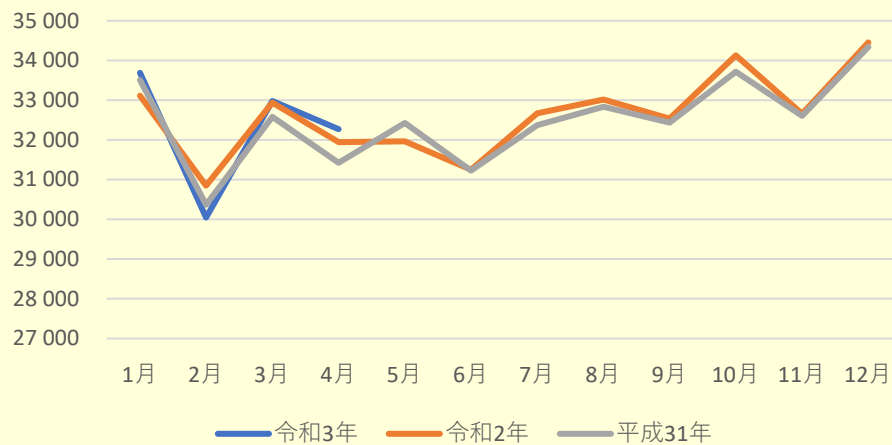
(注)延べ人数、全国32支部が回答。
日本対がん協会の調査より

2021年は上半期のデータ。
2020年に引き続き2021年上半期も、
がん検診が控えられている。
この影響はととても大きいだろう。

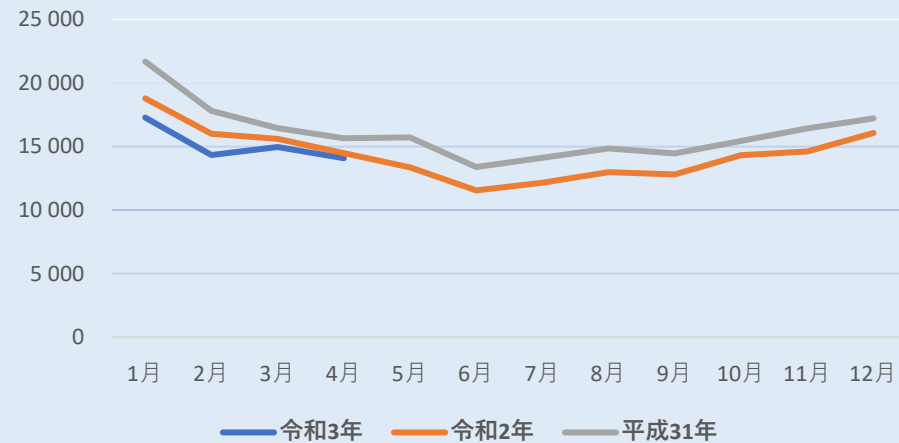
(日経新聞2021年9月26日記事より)

① 主な死因別死亡数の月別推移
2019年 2020年 2021年の比較

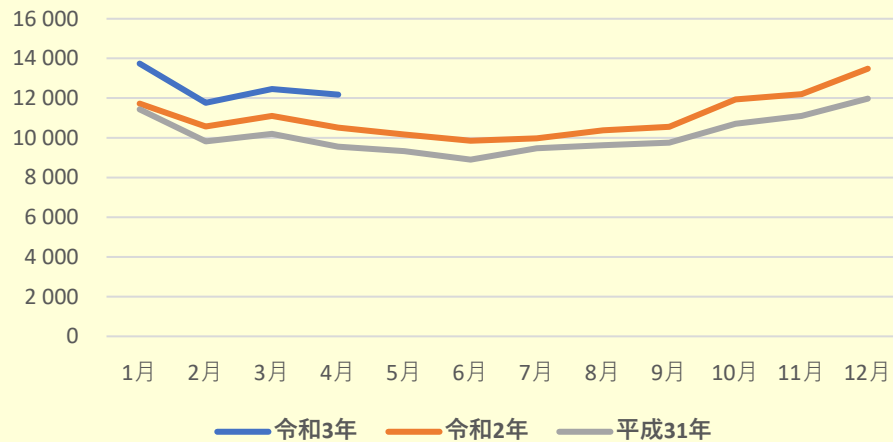
新生物<腫瘍>



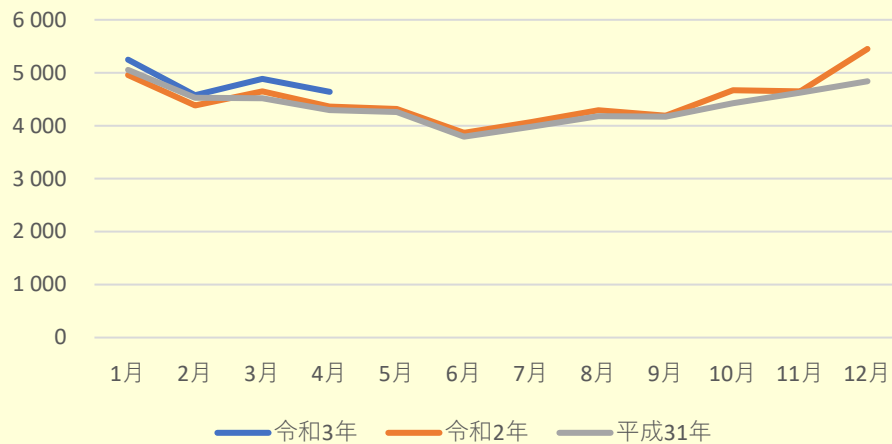
呼吸器系の疾患



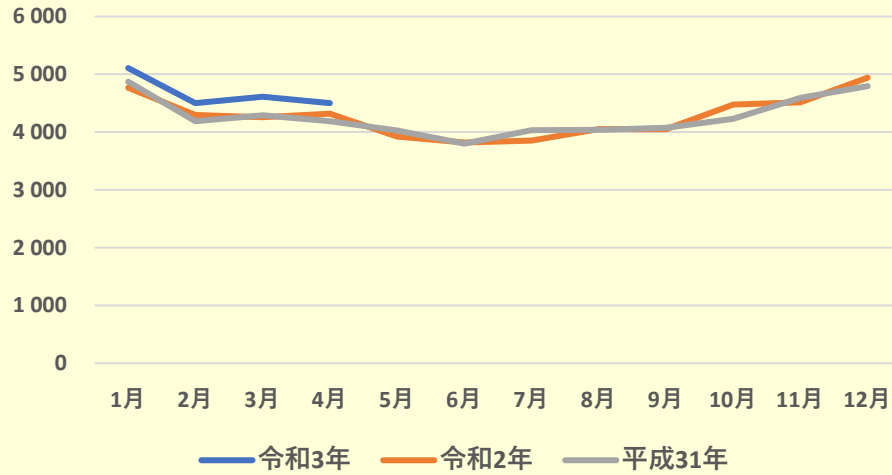
老衰



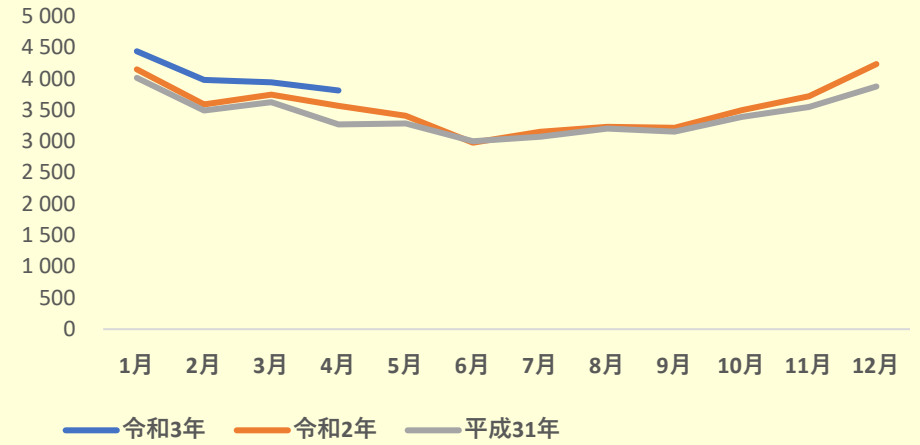
消化器系の疾患



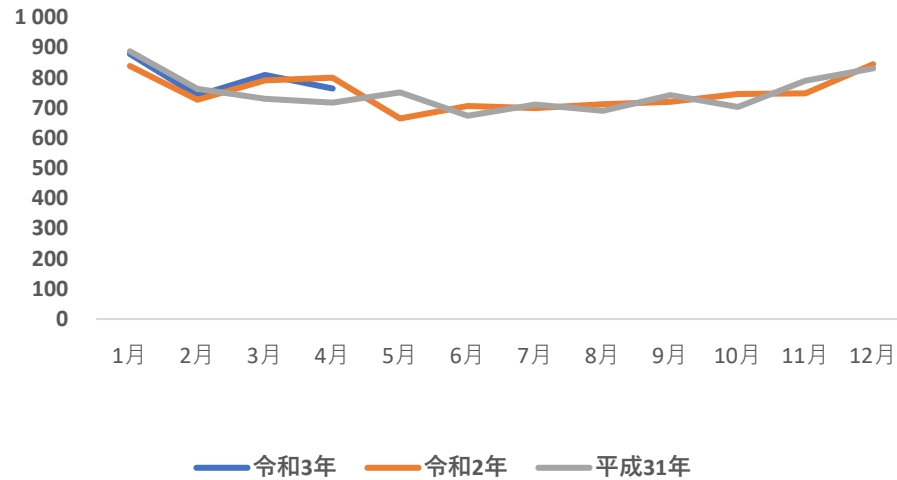
神経系の疾患



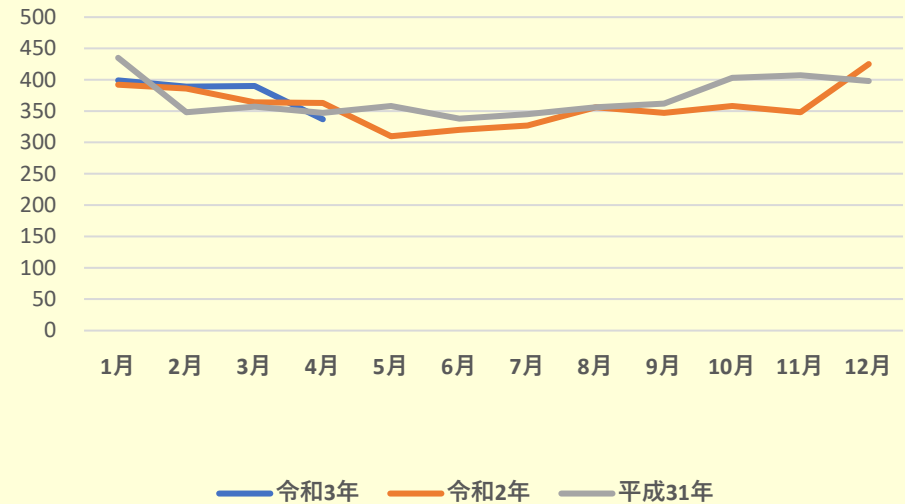
腎尿路生殖器の疾患



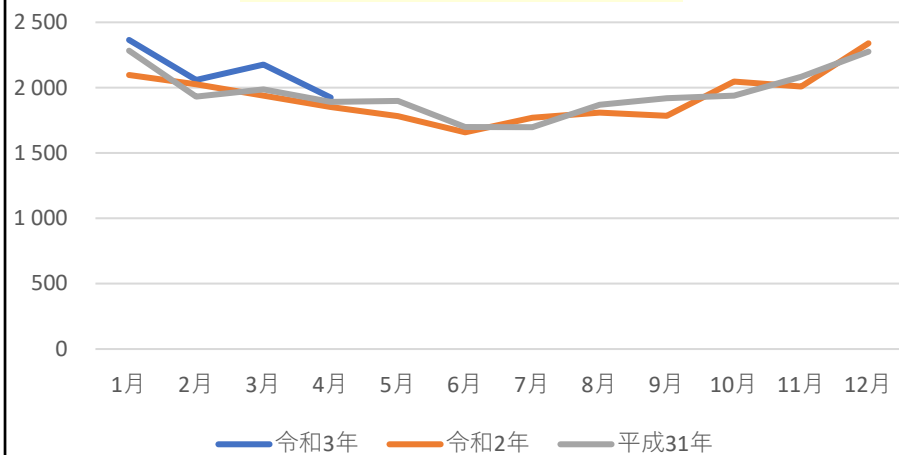
筋骨格系及び結合組織の疾患



血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害

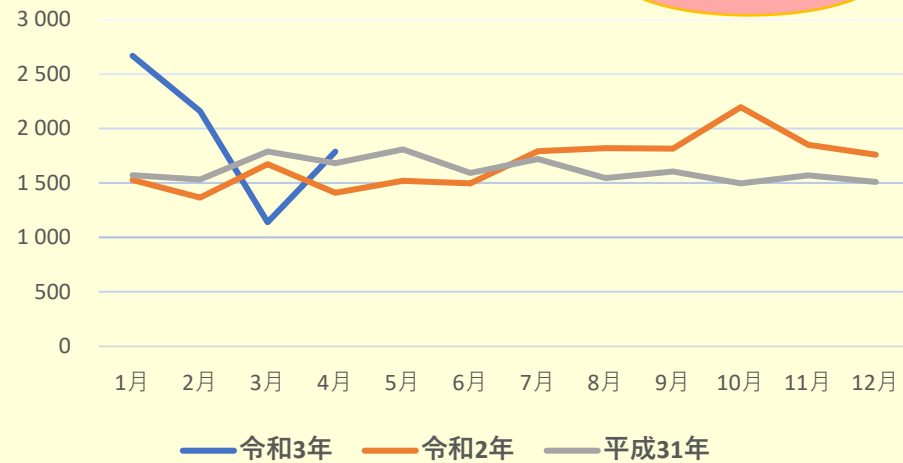


精神および行動の障害



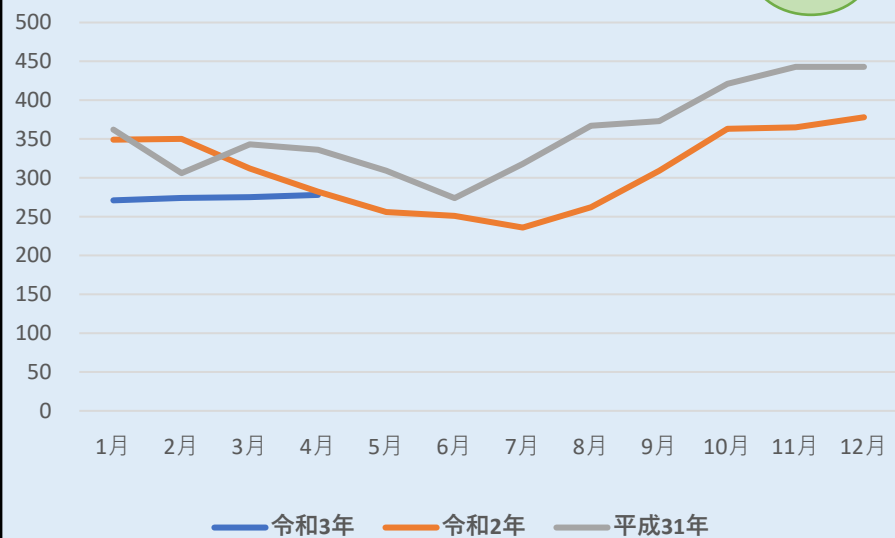
自殺

減⇒増



交通事故

減



② 主な死因別死亡数の月別推移

2020年と“2015～2019年平均”との比較

人口動態統計より作成

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
総数	2020	1,372,648	128,993	115,554	117,979	112,407	107,484	99,551	104,046	110,646	106,582	117,144	117,585	134,677
2015-19average		1,336,441	132,072	116,147	117,700	107,691	106,229	97,667	102,405	105,026	102,165	110,792	113,833	124,714
2015-19 min		1,290,428	122,725	110,140	113,754	104,826	102,653	94,747	98,862	101,223	98,237	107,920	106,863	118,494
2015-19 max		1,381,098	137,787	122,425	120,693	111,894	111,119	101,386	106,271	110,475	106,823	113,257	118,428	128,806
新型コロナウイルス	2020	3,459	0	0	66	353	473	81	37	285	275	195	373	1,321
感染症及び寄生虫症	2020	22,124	2,146	1,998	1,972	1,859	1,680	1,639	1,660	1,739	1,755	1,809	1,833	2,034
2015-19average		24,479	2,454	2,106	2,190	1,987	1,992	1,818	1,872	1,906	1,897	2,001	2,041	2,216
新生物<腫瘍>	2020	391,518	33,114	30,849	32,940	31,944	31,963	31,250	32,667	33,015	32,536	34,127	32,656	34,457
2015-19average		385,679	33,253	30,129	32,431	31,063	31,869	30,820	32,211	32,627	31,962	33,374	32,353	33,586
血液及び造血器の疾患並びに 免疫機構の障害	2020	4,296	392	386	364	363	310	320	327	356	347	358	348	425
2015-19average		4,400	427	369	374	343	348	344	336	351	350	383	382	393
内分泌, 栄養及び代謝疾患	2020	22,427	2,099	1,907	1,933	1,873	1,849	1,605	1,691	1,824	1,673	1,835	1,888	2,250
2015-19average		21,860	2,305	2,012	1,989	1,771	1,705	1,566	1,623	1,733	1,558	1,687	1,812	2,100
精神及び行動の障害	2020	23,110	2,097	2,025	1,938	1,851	1,782	1,659	1,770	1,809	1,784	2,046	2,009	2,340
2015-19average		18,972	1,795	1,601	1,610	1,520	1,513	1,370	1,421	1,474	1,497	1,622	1,729	1,819
神経系の疾患	2020	51,260	4,765	4,294	4,257	4,318	3,922	3,821	3,853	4,051	4,049	4,475	4,513	4,942
2015-19average		41,714	3,899	3,423	3,540	3,343	3,269	3,046	3,239	3,292	3,308	3,611	3,776	3,968
循環器系の疾患	2020	345,356	34,802	30,823	30,411	28,729	26,493	23,772	24,580	26,295	25,040	28,598	29,605	36,208
2015-19average		346,267	37,717	32,394	31,730	28,150	26,732	23,956	24,871	25,364	24,401	27,400	29,561	33,990
呼吸器系の疾患	2020	172,704	18,788	16,002	15,602	14,483	13,354	11,548	12,153	12,979	12,800	14,320	14,607	16,068
2015-19average		198,106	21,505	18,655	17,761	16,020	15,660	13,725	14,259	14,952	14,837	16,021	16,694	18,016
消化器系の疾患	2020	53,848	4,957	4,383	4,648	4,360	4,315	3,866	4,069	4,291	4,189	4,669	4,650	5,451
2015-19average		50,536	4,893	4,373	4,488	4,078	4,082	3,672	3,772	3,952	3,904	4,244	4,315	4,763

呼吸器系の疾患														
	2020	172,704	18,788	16,002	15,602	14,483	13,354	11,548	12,153	12,979	12,800	14,320	14,607	16,068
2015-19average		198,106	21,505	18,655	17,761	16,020	15,660	13,725	14,259	14,952	14,837	16,021	16,694	18,016
消化器系の疾患														
	2020	53,848	4,957	4,383	4,648	4,360	4,315	3,866	4,069	4,291	4,189	4,669	4,650	5,451
2015-19average		50,536	4,893	4,373	4,488	4,078	4,082	3,672	3,772	3,952	3,904	4,244	4,315	4,763
皮膚及び皮下組織の疾患														
	2020	2,821	294	257	241	268	206	171	199	245	192	230	231	287
2015-19average		2,212	199	197	196	188	181	168	181	170	164	187	183	197
筋骨格系及び結合組織の疾患														
	2020	8,998	839	727	791	800	665	706	699	712	720	746	748	845
2015-19average		7,713	722	666	677	626	620	571	611	601	605	628	667	721
腎尿路生殖器系の疾患														
	2020	42,499	4,150	3,590	3,746	3,566	3,409	2,979	3,154	3,233	3,218	3,497	3,720	4,237
2015-19average		38,789	3,852	3,404	3,449	3,171	3,108	2,795	2,909	2,987	2,908	3,217	3,361	3,629
老 衰														
	2020	132,435	11,723	10,572	11,101	10,509	10,165	9,856	9,969	10,372	10,555	11,931	12,198	13,484
2015-19average		103,982	9,590	8,943	8,914	8,767	7,834	7,313	7,641	8,624	8,015	9,090	9,228	10,023
傷病及び死亡の外因														
	2020	66,130	6,376	5,593	5,771	4,949	4,747	4,268	4,811	5,990	4,954	5,916	5,768	6,987
2015-19average		67,535	7,033	6,063	6,234	5,472	5,324	4,655	5,243	5,228	4,771	5,280	5,635	6,596
交通事故														
	2020	3713	349	350	312	282	256	251	236	262	309	363	365	378
2015-19average		4,913	414	362	395	383	378	337	380	418	405	463	464	515
自 殺														
	2020	20,222	1,527	1,366	1,672	1,409	1,520	1,496	1,792	1,819	1,815	2,197	1,850	1,759
2015-19average		20,797	1,653	1,596	1,949	1,797	1,929	1,764	1,762	1,695	1,714	1,704	1,633	1,602

③ 超過死亡（東京都）

「超過死亡」とは

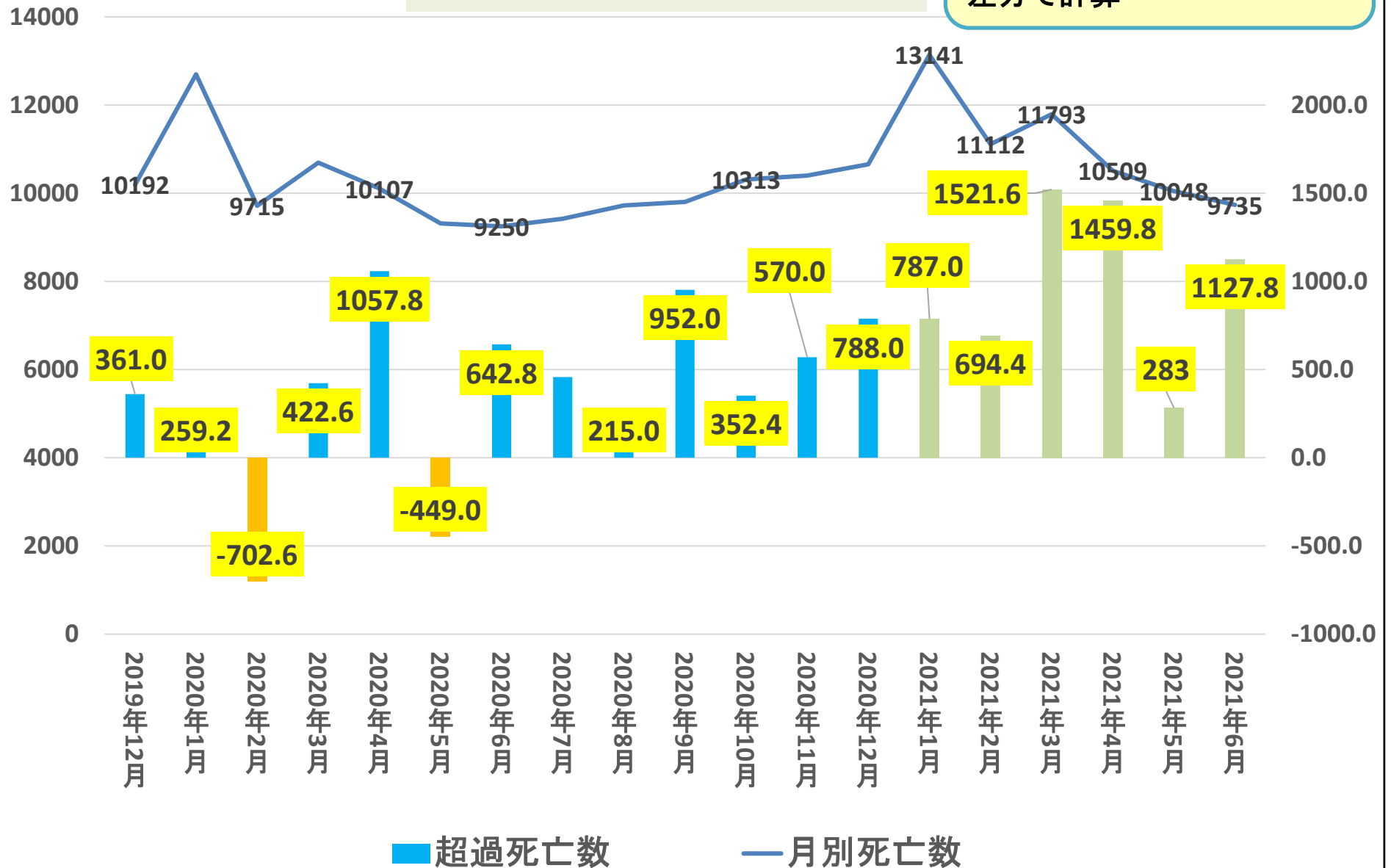
- 「超過死亡」は、前5年間の月別死亡数の平均と比較して、死亡数が増えているか減っているかを数字で示したものです

(註. 感染症研究所から出されている「超過死亡」は補正されていて数値が異なります)

- 世界各国では、2020年は新型コロナによる死亡で「超過死亡」が発生していました
- 日本では、新型コロナの影響で医療機関が「受診制限」、国民が「受診抑制」したために、新型コロナ以外の死亡によって「超過死亡」が発生したと考えられています

東京都 月別死亡数と超過死亡数

2021年の超過死亡数は、
2015年～2019年の平均との
差分で計算



④ 精神科医療への影響

■精神科外来

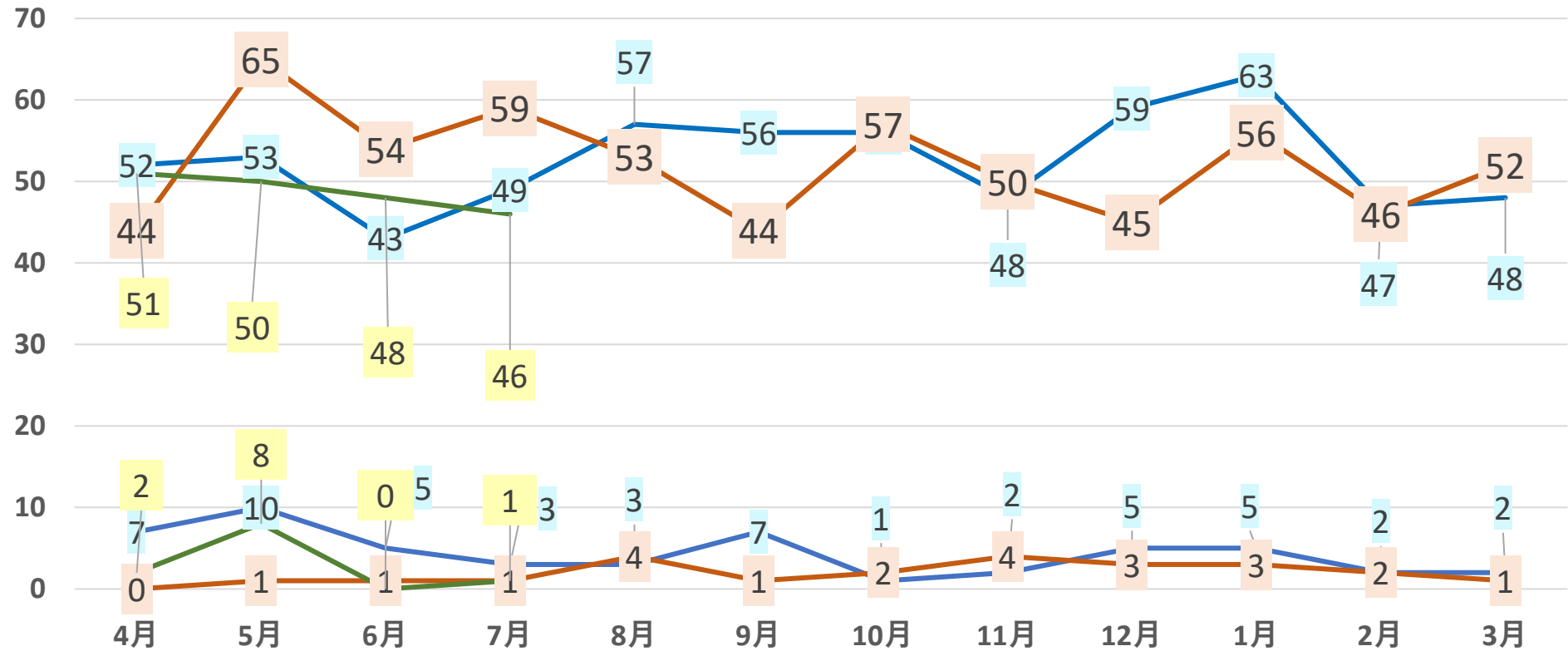
- 精神科外来受診件数が1～2割減少
都心部の精神科外来と郊外とで大きく異なる
(支払基金「診療報酬請求額の前年度比較」などから推測)

■東京都の精神科救急

- 二次救急（入院）件数はあまり変化なかったが、
そのうち警察官が保護していたケースが、令和
元年度36.3%であったのが、令和2年度46%に
なった。令和3年度6月までは38.3%である
- 初期救急（外来）は令和2年4月以降、著しく
減ったままである

東京都精神科救急医療情報センター

初期救急 二次救急



— 2019年度 初期 — 2020年度 初期 — 2021年度 初期
— 2019年度 二次 — 2020年度 二次 — 2021年度 二次

精神科二次救急のうちで 警察官が保護していたケースの割合

年 度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 (4月～7月)
二次救急の総数	558	631	622	195
そのうち警察官が保護していたケース	166	229	286	75
二次救急に占める割合	29.7%	36.3%	46.0%	38.5%

精神障害を持っている人は 新型コロナウイルスによる死亡率が高かった

精神障害を持っている人の新型コロナウイルスによる死亡率は、
持っていない人に比べて、

調整死亡率で1.67倍であった

新型コロナウイルスそのものの影響ではなく、新型コロナウイルスが生活
に与えた影響、そのものから健康を管理、服用している薬剤
など、複合的な要因による結果と見るべきだろう

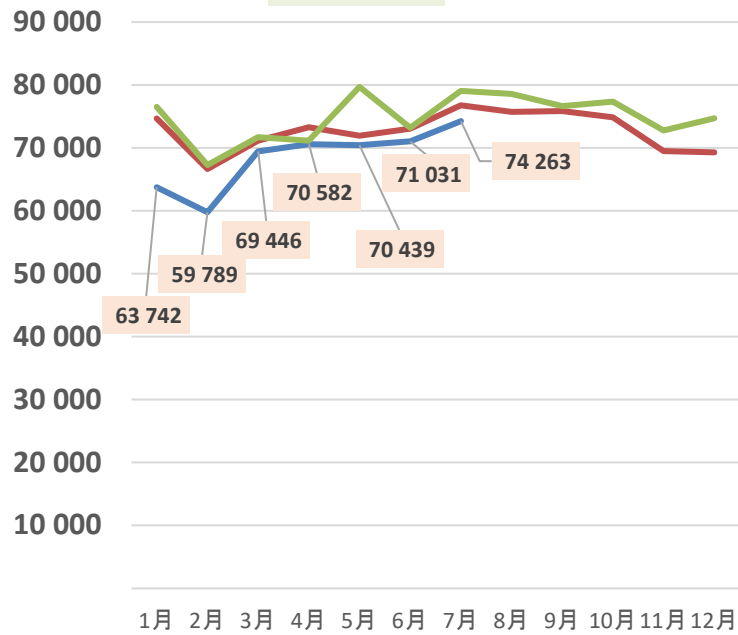
<https://jamanetwork.com/journals/jamapsychiatry/fullarticle/2782457>

Association Between Mental Health Disorders and
Mortality(Among Patients With COVID-19 in 7 Countries, A
Systematic Review and Meta-analysis)

2. 人口動態統計（速報）から

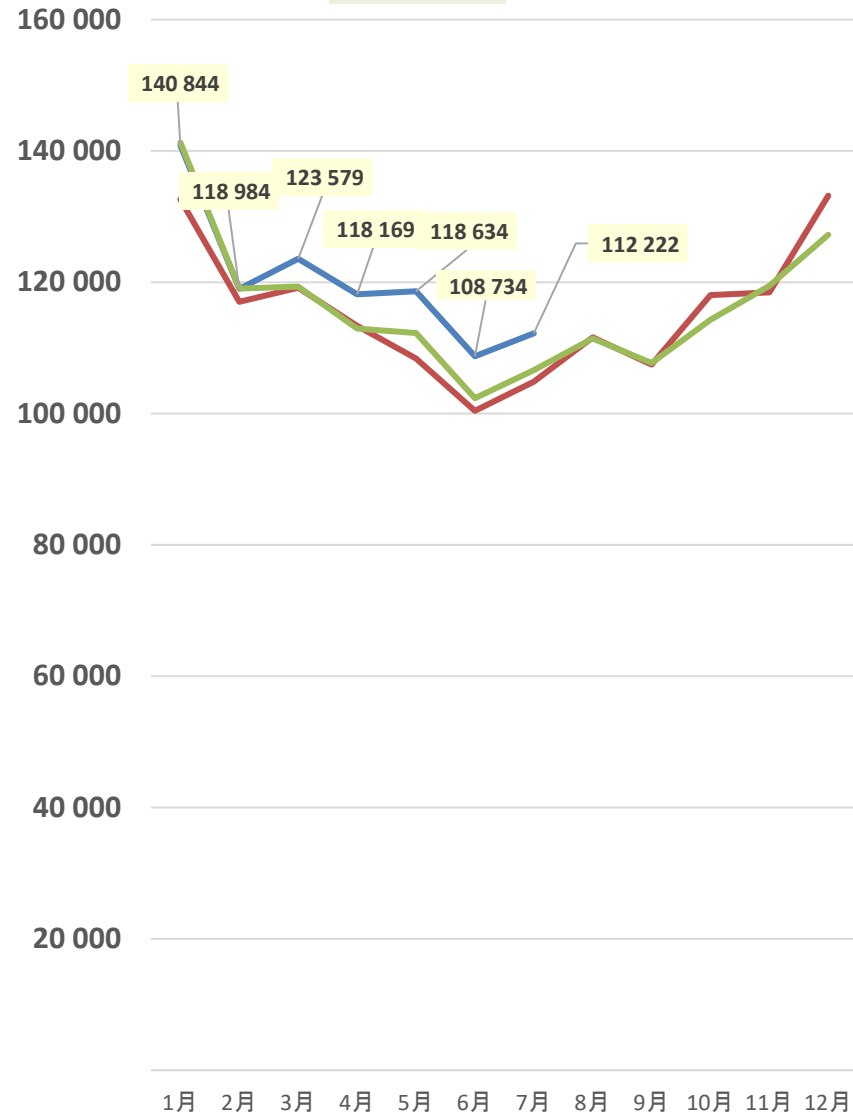
2019年 2020年 2021年（7月まで）

出生数



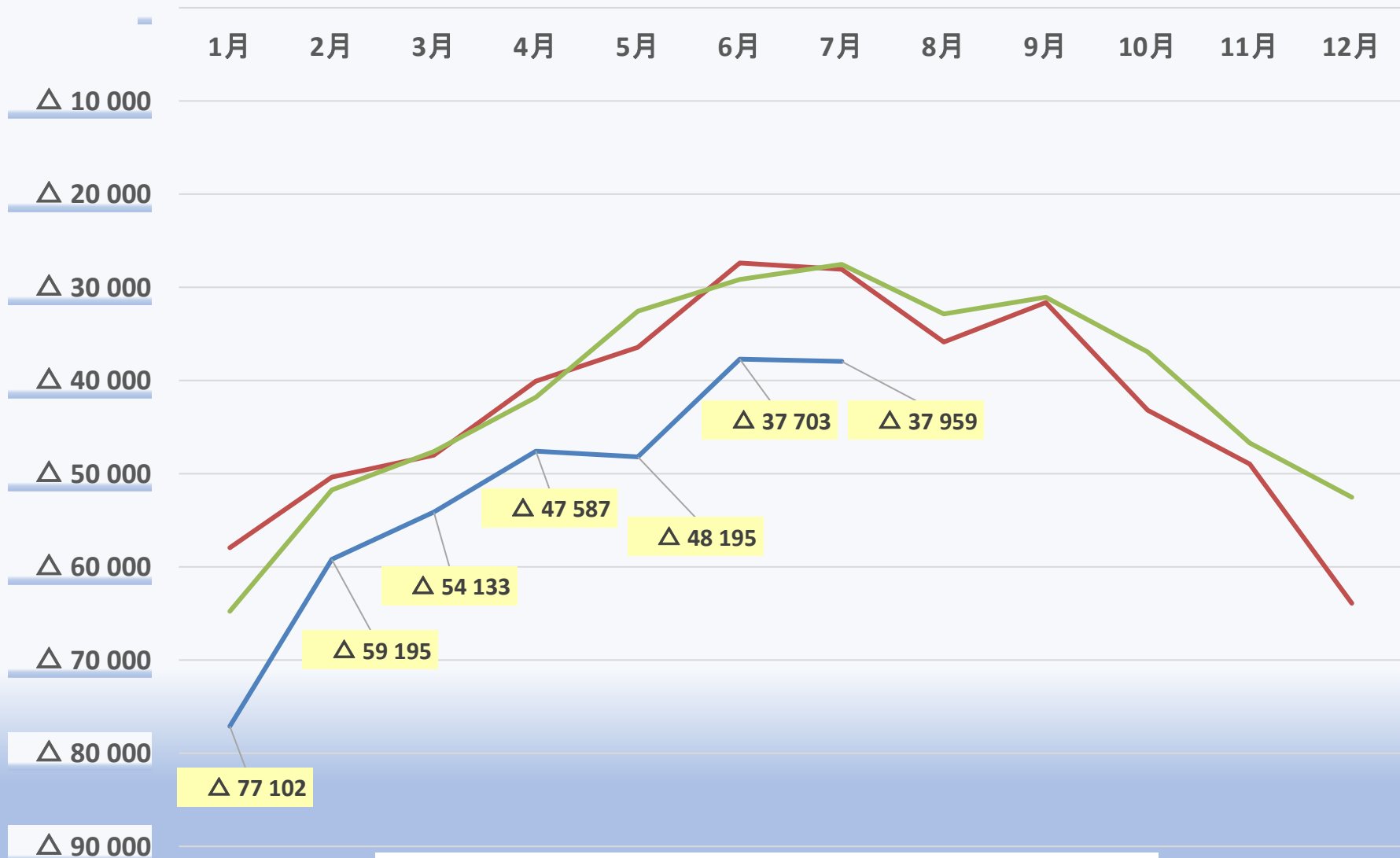
— 令和3年 — 令和2年 — 平成31年・令和元年

死亡数



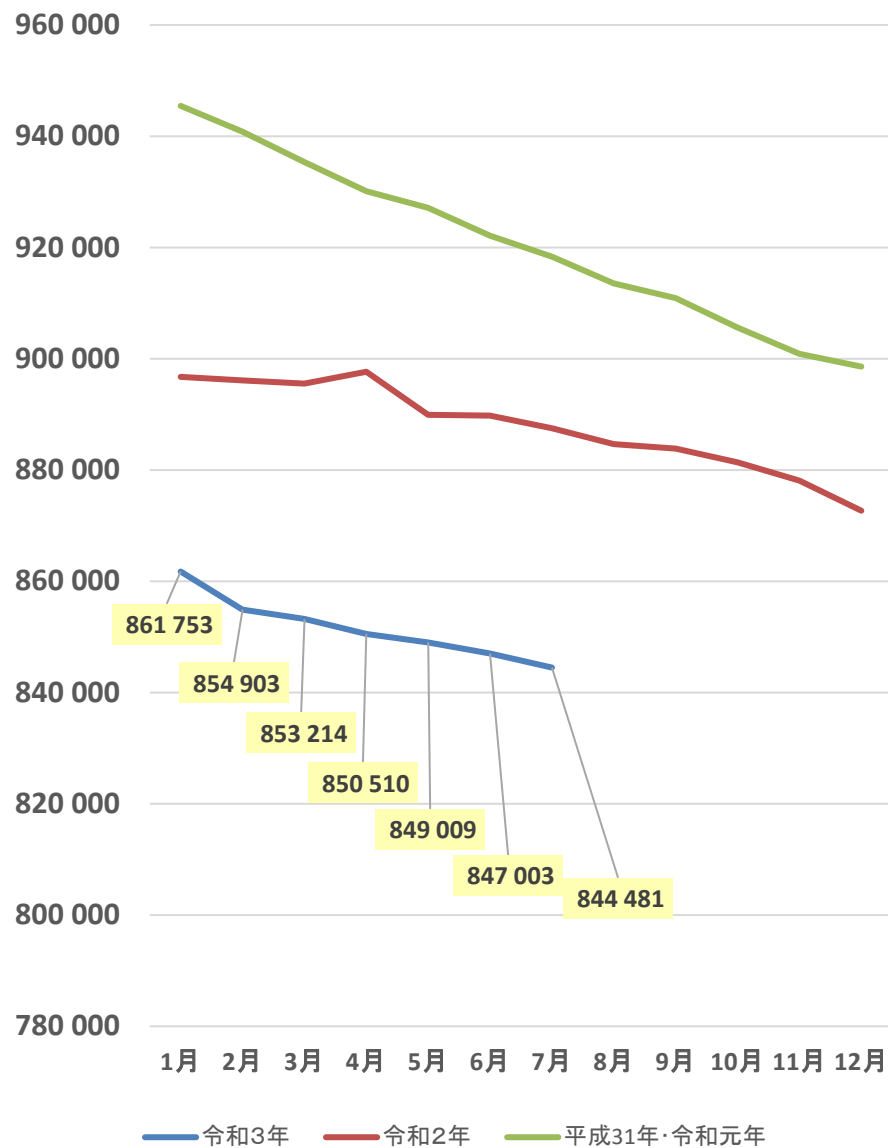
— 令和3年 — 令和2年 — 平成31年・令和元年

人口の自然増減

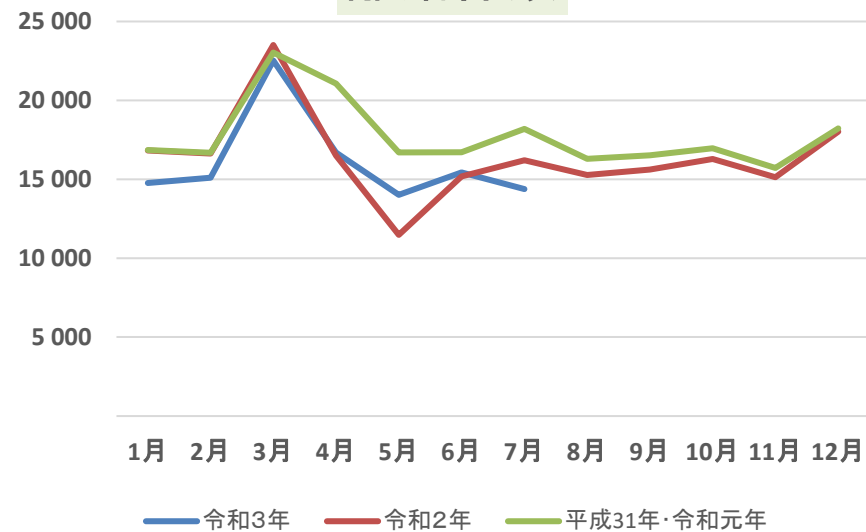


— 令和3年 — 令和2年 — 平成31年・令和元年

婚姻件数



離婚件数



月別妊娠届出数の推移

2020年1月～12月の累計妊娠届出数 872,227件
2019年1月～12月の累計妊娠届出数 916,590件

2020年は対前年比で95.2%（4.8%減）



妊娠届出数から2021年の出生数は▲3.7%
81万程度と見込まれている

2020年日本の総人口 42万人減 (総務省)

2021年はもっと大きく減る

**「急激な人口減少」は
日本社会に計り知れない影響を及ぼす**

- 少子高齢化がいっそう加速する
- 年金、医療保険、介護保険を見直す必要
- 将来の労働力不足、など

コロナ流行と感染症対策による

3. 生活・経済活動への影響

① 完全失業数・完全失業数の推移

労働力調査（基本調査）令和3年7月分より

昨年4月以降、就業者数・就業率が対前年比で著しく減っていたが、今年4月から上向いている

昨年4月以降、対前年同月比で、完全失業率は今年に入って僅かに減る。
完全失業者数は今年に入って少しずつ減っている

図1 就業者数の対前年同月増減と就業率の対前年同月ポイント差の推移

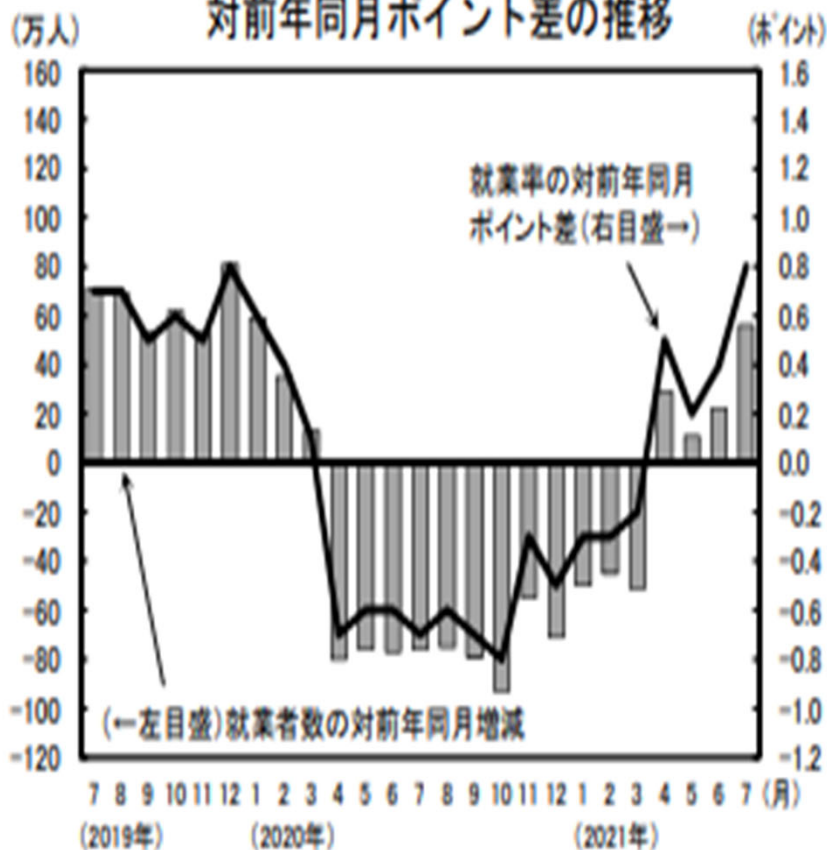


図2 完全失業者数の対前年同月増減と完全失業率(季節調整値)の推移

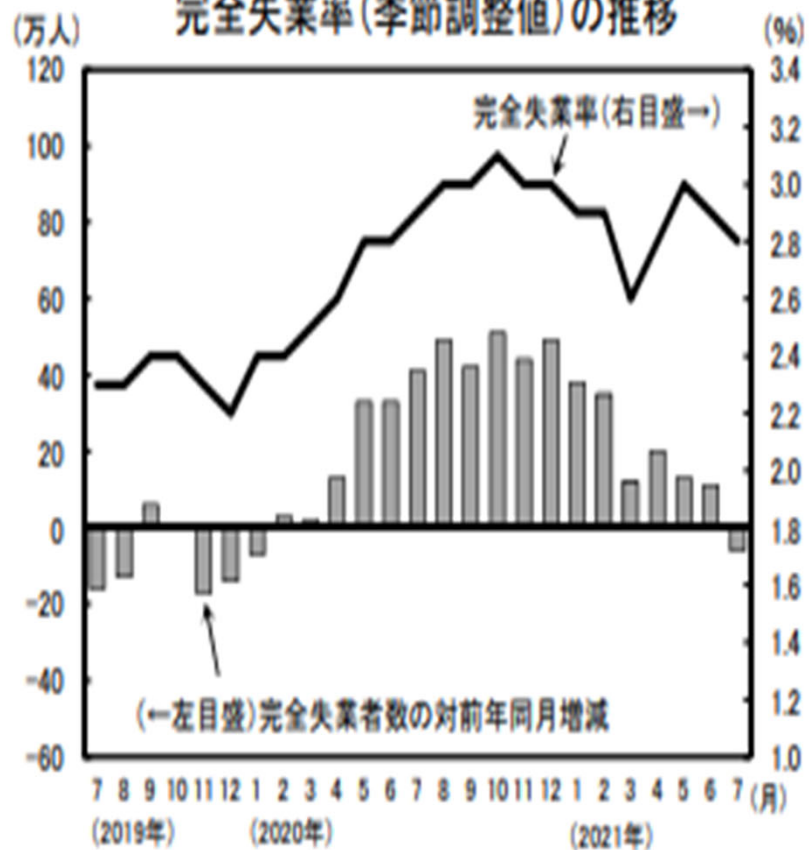
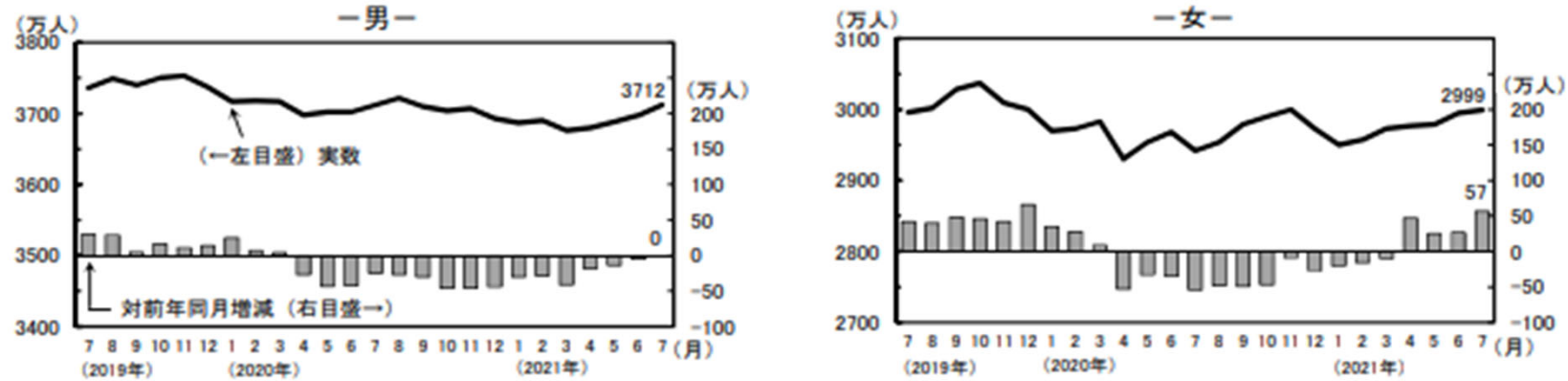
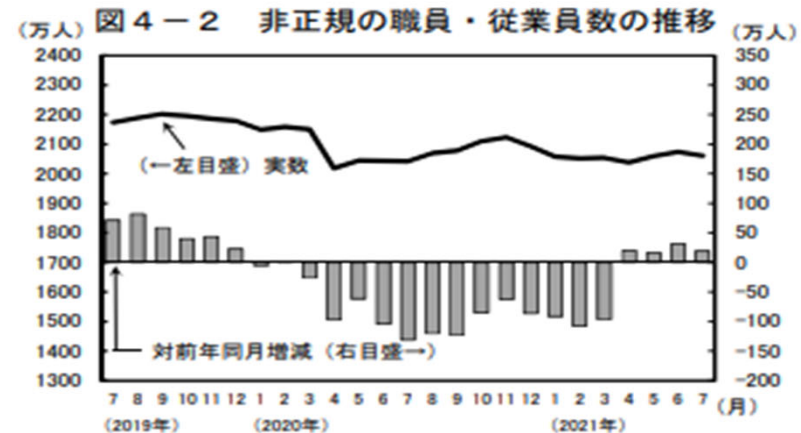
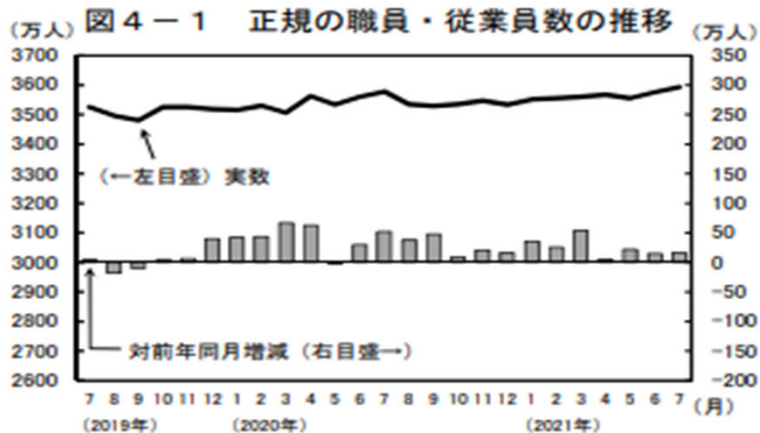


図3-2 就業者数の推移（男女別）



就業者数の前年同月比、男性も女性も昨年4月から減少していたが、今年に入って、男性は減少幅が小さくなり、女性は昨年4月から増加に転じた。



前年同月比、4月～5月で正規職員・従業員も非正規職員・従業員も微増

② 家庭で起きていたこと

コロナで蘇った家庭がある一方で、
コロナで家族内対立が強まった家庭がある

DV、児童虐待、家庭内暴力などの件数が急増・・・

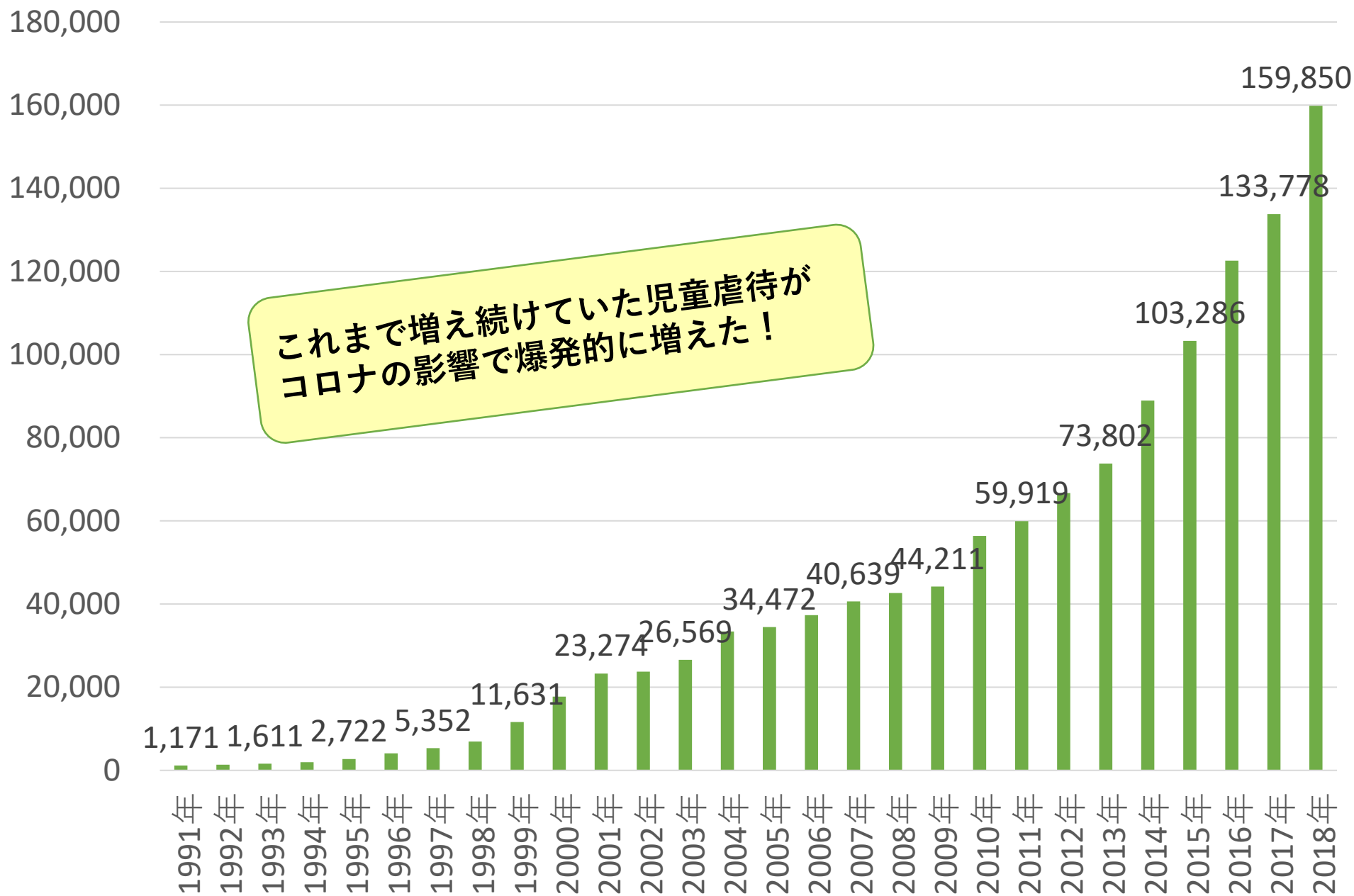
児童虐待

東京都の児童虐待相談対応
件数の増加が著しい

児童虐待相談 対応件数		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021 年 1月	2021 年 2月	2021 年 3月
東京都	2020年	1,823	1,943	2,886	1,657	1,475	2,020	2,610	1,933	2,286	2,152	1,888	2,271	2,038	1,924	3,262
	2019年	1,394	1,476	2,177	1,285	1,147	1,280	1,868	1,513	1,524	2,174	2,119	2,126	1,823	1,943	2,886
	対前年同 月比	130.8%	131.6%	132.6%	128.9%	128.6%	157.8%	139.7%	127.8%	150.0%	99.0%	89.1%	106.8%	111.8%	99.0%	113.0%
全国	2020年	14,816	15,051	23,732	14,953	13,772	18,028	17,026	14,901	16,890	17,692	14,725	16,532	15,081	15,191	24,636
	2019年	12,249	13,517	20,074	13,746	13,871	16,092	17,690	14,840	15,740	17,636	15,425	15,786	14,816	15,051	23,732
	対前年同 月比	121.0%	111.3%	118.2%	108.8%	99.3%	112.0%	96.2%	100.4%	107.3%	100.3%	95.5%	104.7%	101.8%	100.9%	103.8%

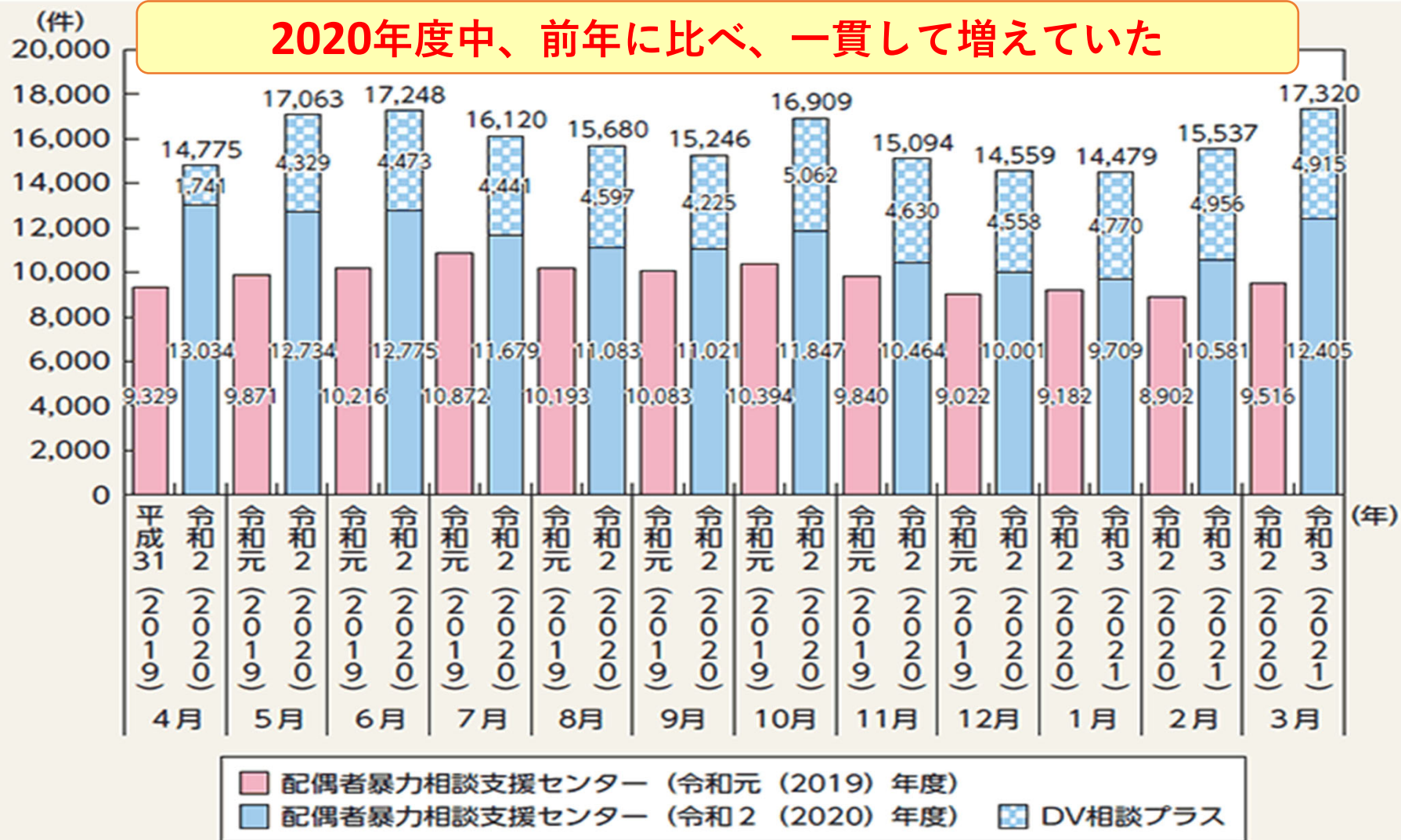
厚労省「児童虐待相談対応件数の動向について」より

児童相談所での児童虐待相談対応件数の推移



DV（配偶者暴力）相談件数の推移

2019年度と2020年度の同月比較



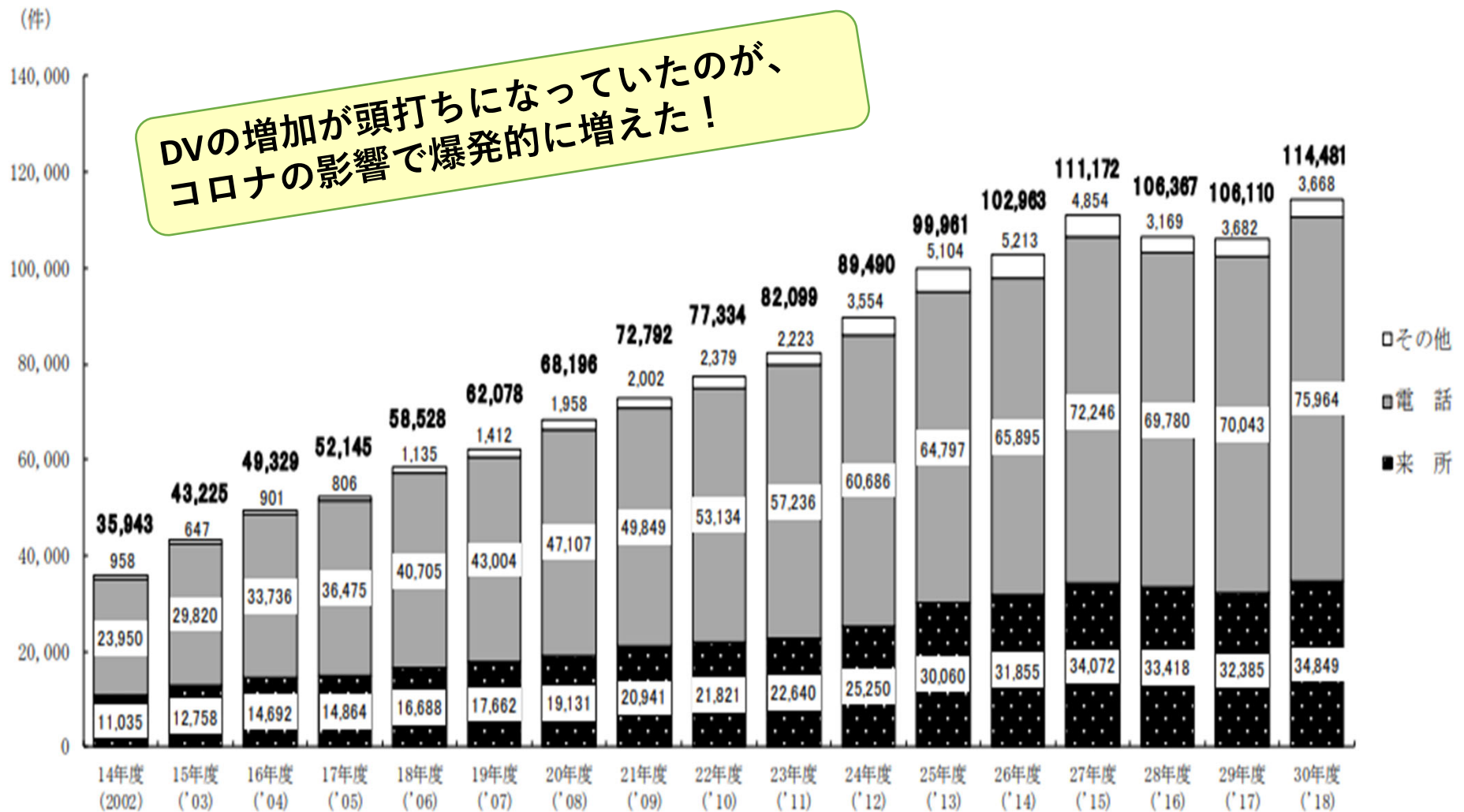
内閣府男女共同参画局調べ。

全国の配偶者暴力相談支援センターからの相談件数は、令和3（2021）年3月31日時点の暫定値。

令和元（2019）年度は、月毎の相談件数を集計していないセンターがあったため、月毎の合計と令和元（2019）年度全体の相談件数（11万9,276件）は一致しない。

配偶者からの暴力に関するデータ

(内閣府男女共同参画局からの資料 令和元年9月25日)



子どもの家庭内暴力が 2020年は急増した

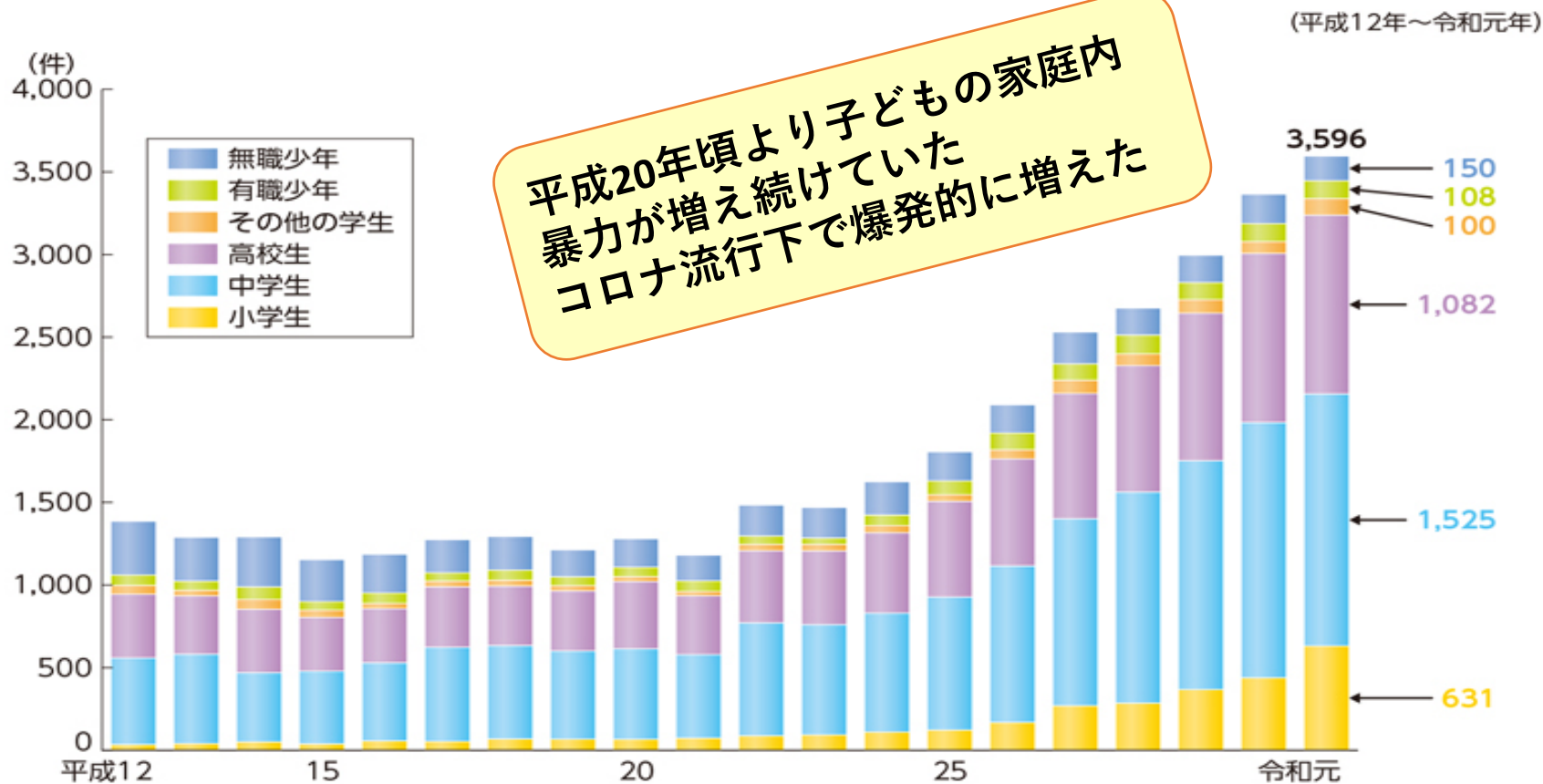
(まだ公式発表は出されていない)

現場の印象では

- 前年比3割増
- 小学生については5割増

少年による家庭内暴力 認知件数の推移

3-1-5-1図 少年による家庭内暴力 認知件数の推移（就学・就労状況別）



平成20年頃より子どもの家庭内暴力が増え続けていた
 コロナ流行下で爆発的に増えた

注 1 警察庁生活安全局の資料による。
 2 犯行時の就学・就労状況による。
 3 一つの事件に複数の者が関与している場合は、主たる関与者の就学・就労状況について計上している。
 4 「その他の学生」は、浪人生等である。

③ 犯罪統計

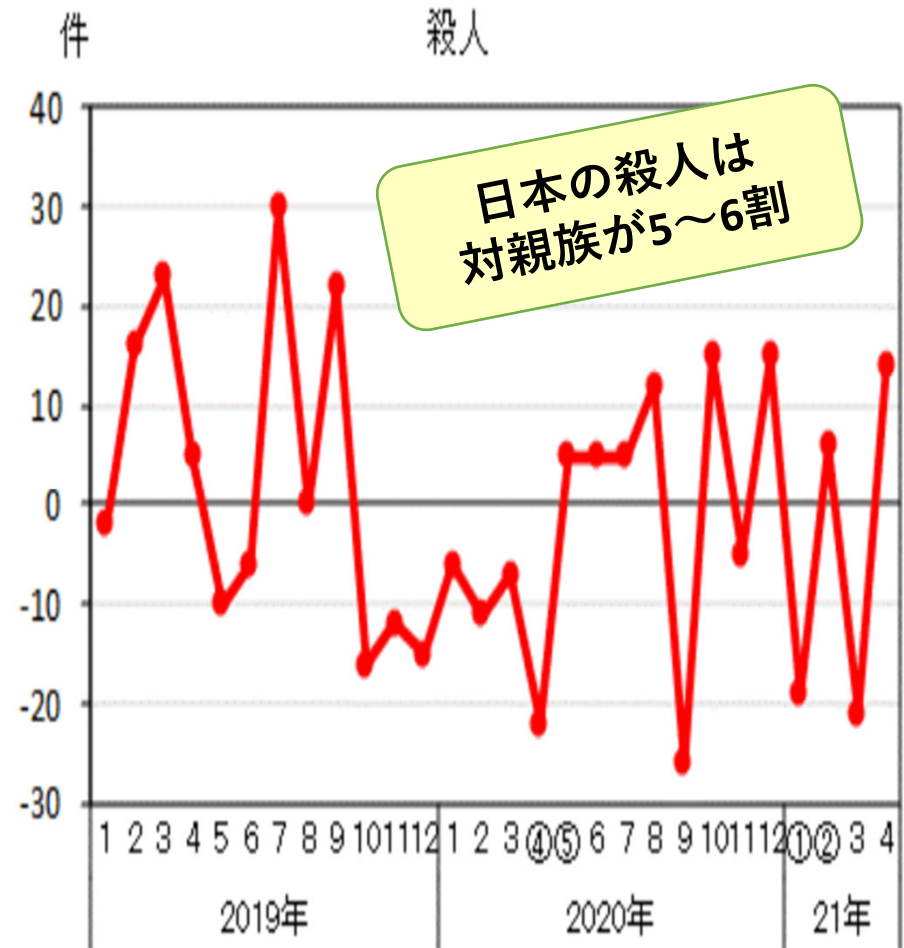
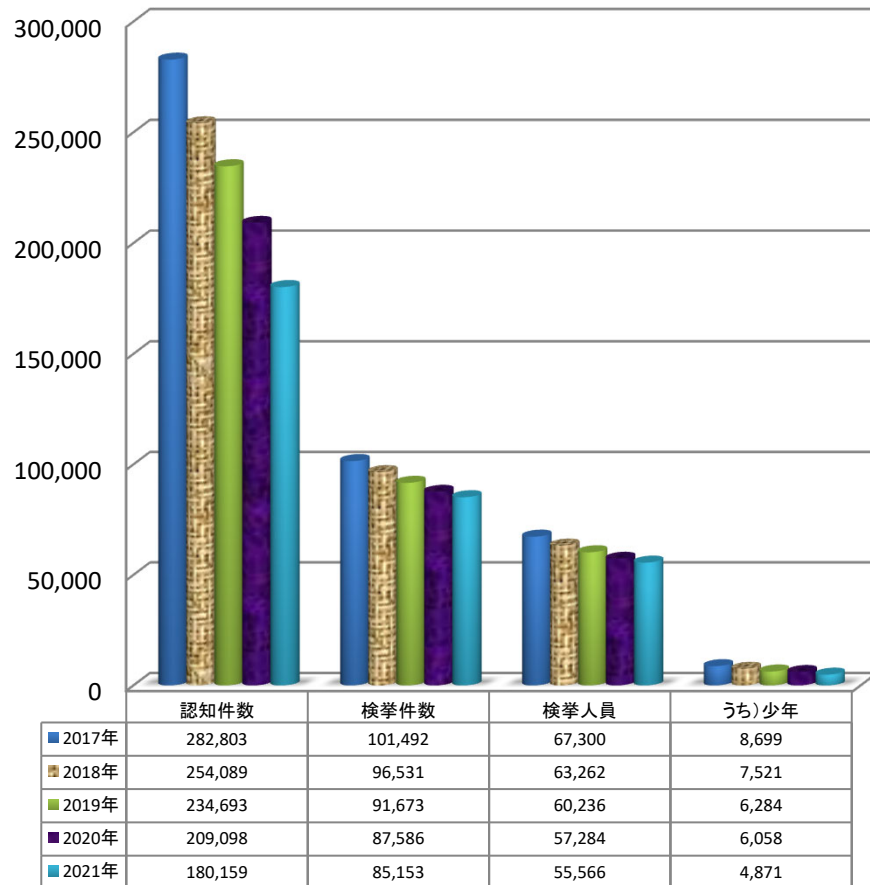
刑法犯総数は減少している しかし、殺人は減少していない

警察庁 犯罪統計より

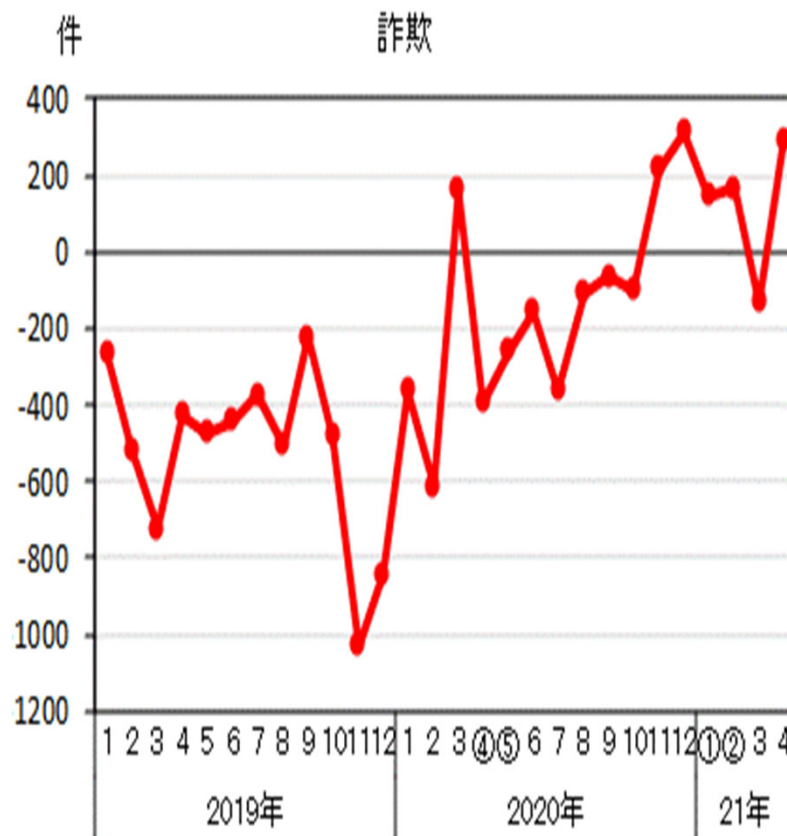
本川裕 社会実情データ図録より

刑法犯総数

【各年1-4月】



窃盗が減少から抜け出しつつある
 詐欺が増加し続けている
 犯罪が増えそう 治安悪くなりそう



本川裕 社会実情データ図録より

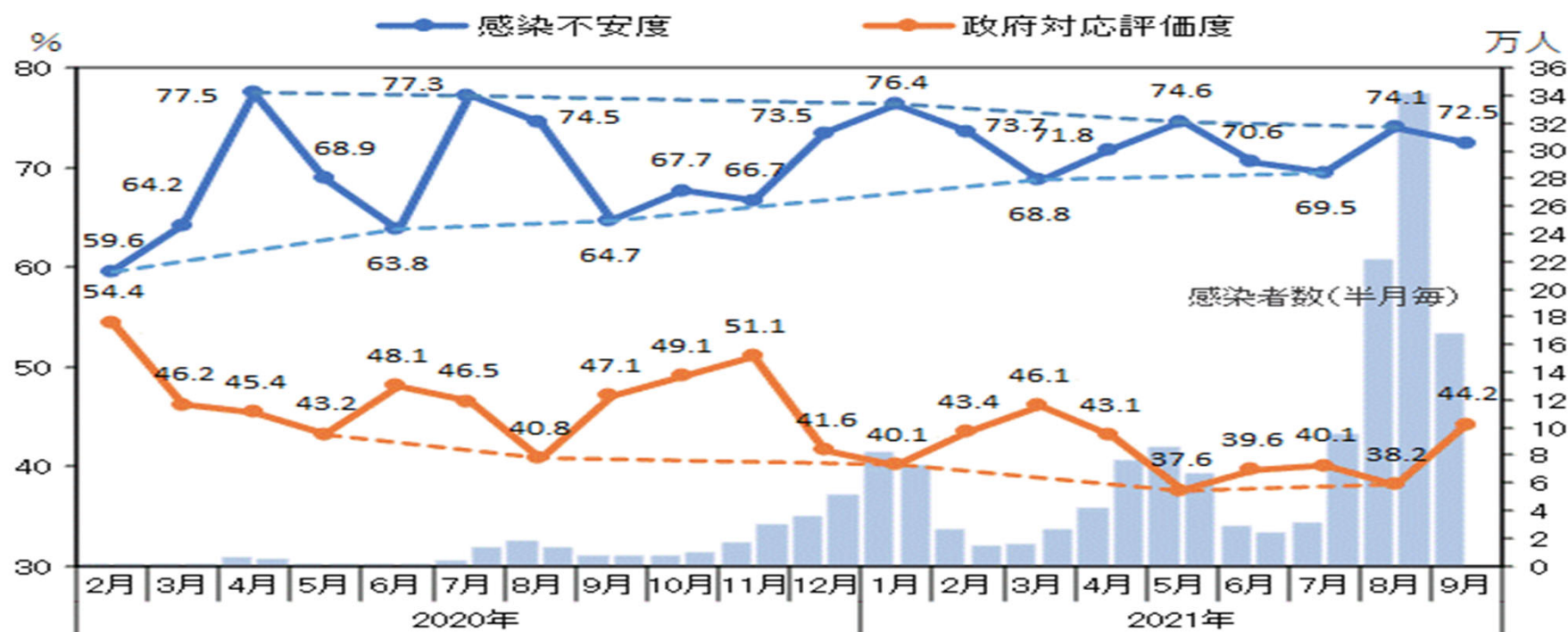
4. 公的なものの在りよう

国、地方自治体、公務員
政党、政治家、マスメディア
各種団体、NPO

新型コロナウイルス感染拡大に対する 国民意識の推移

本川裕 「社会実情データ図録」より

感染者数が増加するたび不安がいっそう高まるが、一貫して不安の程度は最近まで高止まったままである。反比例して政府対応評価は低下している



(注) コロナ関連の設問が設けられて以降の結果。4択の設問への回答を0~100%に換算した数値(感染不安度の場合、「あなたは、ご自分やご家族が新型コロナウイルスに感染する不安をどの程度感じますか」への回答「大いに不安」、「ある程度不安」、「あまり不安ない」、「まったく不安ない」の%にそれぞれ1、2/3、1/3、0を乗じて合計した値。政府対応評価度も同様)。感染者数は札幌医科大学のまとめ。

(資料) NHK世論調査(政治意識月例調査-月前半の金土日調査)

政府に対して、家庭内・職場内・地域社会で、国民の不安・不信・怒り・諦めが強まっている

1. 感染者数が増加するたびに、国民の不安感が高まり政府の対応への評価が下がる
2. 政府や自治体の、説明不足や対応の強引さ（酒類販売業者への“要請”など）、モタモタ（ワクチン接種などで）に国民は不満を抱きながら、声には出さない
3. 家庭の中で“清潔”を巡る対立、電車などで“マスクをしない人に怒鳴る”、“他県ナンバーの車への威嚇”など、家庭内・職場内・地域社会で対立が多くなっている。
4. 人々どうしの助け合いが、コロナ対策のために制限され、東日本大震災や水害被害のときのように行えず、逆に、孤立感を強めている

アウトライン (1)

「医療・国民の健康」に及ぼした影響が甚大

- 「がん治療、心筋梗塞、脳卒中」の医療、救急医療が著しく滞ったまま。この影響は2021年以降に顕在化して、死亡者数が大きく増加しかねない
- 死因別統計（2020年と2019年の比較）で、老衰の増加、自殺が年後半から急増。今後高止まりしかねない
- 死因別統計（2020年と2015～2019年の平均との比較）では、精神及び行動の障害、神経系の障害、筋骨格系及び結合組織の疾患、老衰が増加。今後高止まりしかねない
- 「超過死亡」が2021年に入ってから東京都で顕著になっている
- 精神科医療で、外来通院が減少。精神科救急で警察官が保護したケースが顕著に増加。精神障害を持っている人のコロナ死亡率が1.67倍であった。今後も続きかねない
- 子どもの体力が第2次大戦後始めて著しく低下。高齢者の足腰の衰え（フレイル）が顕著。今後も続きかねない

アウトライン (2) 人口動態統計 (速報) から予測される激変

- 人口動態統計 (速報) などの資料から、2020年後半から出生数が激減。その一方で、2021年に入って死亡数が増加。その結果として、今後、少子高齢化と人口減少が急加速する。「社会保障制度、産業構造、地域社会」を大きく変更せざるを得なくなる

日本のコロナ流行が、世界各国と比べて、顕著に少ない中で、何故、これほどの激変を引き起こしてしまったのか。感染症対策のどこが間違っていたのか検証が必要

アウトライン (3)

家庭・学校・企業・地域社会・政治に諸々の影響

■ 家庭・家族

絆が強まった家族もあれば、葛藤が激しくなった家族もある。(児童虐待、DV、など)

■ 子ども～大学生

子ども～大学生の学力低下・体力低下・社会的能力低下

■ 正社員・派遣社員・パート

在宅勤務に適応出来た人もいれば、適応出来なかった人もいる
失業増加、雇用形態の変化、外国人導入が急加速
貧しくなった人が多い中で、新しいチャンスを掴んだ人もいる

■ 企業

経営行詰まり・廃業企業もあれば、最高益の企業も。新しいタイプの企業の誕生

■ 地域社会

対立が噴出した地域もあれば、繋がりが強くなった地域も
全国的に治安悪化の兆し、外国人の存在感が増す

■ 国・地方自治体

国への信頼が薄らいでいる

地方自治体によって信頼が強まったところもあれば、薄らいってしまったところもある

■ 政治

政治不信が強まっている

考察

感染症対策を見直すときだ

これまでの対策で欠けていたこと

1. 感染症対策の目的が曖昧だった

「感染を抑えて人々の命と暮らしを守る」ことが感染症対策の目的だ。感染防止にのみめり込んで「人々の命と暮らし」を破壊しては本末転倒だ。

2. 感染症対策のために私たちに必須なことを長く止めてきた

私たちに必須な、人と人との密な繋がり、企業と企業の密な関係、国と国との密な交流を、感染防止のために長く止めている。その結果、一人一人に、また、社会全体に甚大な悪影響が起きている。

3. 感染を抑えるための対策としても不十分だった

感染対策が抽象的であった；「3密回避、人流を減らす」といった抽象的なことでは感染症を抑えられない。場面・場所に応じた具体的な対策でないと効果が上がる筈がない。

抽象的な対策は、曖昧さから、必ず極端になる。そのため甚大な悪影響が起きてしまっている。

4. 国民への説明や情報開示が乏しかった

国民への説明や情報開示が乏しいまま、強引に進められてきた。

5. 国民を怖がらせ続けてきた

専門家集団もマスメディアも恐怖を煽ることばかりしてきた。

コロナ対策をどのように変えて行けば良いのだろう

1. 目的の明確化；国民のいのちと暮らしを守る対策

パンデミックのもとでも私たちに必須な活動を維持できるようにする感染防止対策に皆が知恵を絞ろう

2. 科学的根拠、費用対効果、説明・情報開示

感染防止対策は、科学的根拠に基づき、費用対効果を計算し、国民へ説明と情報開示を十分に行い国民の納得を得て行うようにしよう

3. 皆が負担を分かち合う

誰かが得をして、誰かがひどく困窮するといったことが起きないようにしよう。皆が等しく負担を分かち合うようにしよう

名言をお伝えして終わります

**『もっとも恐れなければならない
のは、恐れそのものだ』**

by Franklin Roosevelt

今、国も、専門家も、私たちの誰もが、恐怖にとらわれ、ゆとり失っています

恐怖を和らげ、ゆとりを取り戻すには、科学的根拠に基づいて行動する、民主主義を大切にして皆が納得して行動する、このふたつが大切だと思います